

令和5年度

# SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

1年 環境科学科



香川県立高松南高等学校

## はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

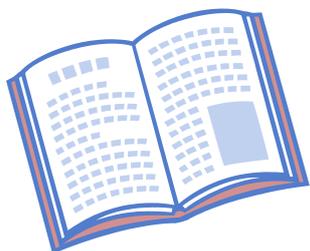
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

## 環境科学科

### ◎科の目標

- ・環境に配慮した農作物の栽培と生産物の活用及び地域環境の創造・保全に関する知識と技術を学び、都市型施設園芸を中心とする農業技術者又は農業土木に関する業務に従事する技術者の養成を目指します。
- ・環境学習やコースに関する実験・実習を中心とした「農業と環境」「栽培と環境」「測量」「農業と情報」「総合実習」「課題研究」等を学習します。
- ・2年次よりコースを選択し、「都市園芸コース」「環境土木コース」の2コースに分かれて学習します。

### ◎資格取得・進路

- ・トレース技能検定、危険物取扱者（乙種・丙種）、測量士補  
小型車両系建設機械講習、ガス溶接
- ・大学、短大、専門学校への進学、公務員及び各種企業への就職

### ①都市園芸コース

#### ◎「草花」「野菜」「果樹」「農業経営」など

自然環境との調和を図った都市型施設園芸に対応した知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	農業と環境	総合実習				農業と情報	測量	LHR														
2年	文学国語	地理総合	数学Ⅰ	生物基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	課題研究	総合実習	農業と情報	野菜	果樹	草花	水循環	社会基盤工学	LHR																
3年	文学国語	歴史総合	数学A	生物基礎	体育	論理・表現Ⅰ	課題研究	総合実習	野菜	果樹	草花	栽培と環境	農業経営	農業機械	LHR																	

・総合実習は時間割外実習2単位を含む。

### ②環境土木コース

#### ◎「測量」「農業土木設計」「農業土木施工」「水循環」など

自然環境と調和した地域環境の設計や創造に必要な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	農業と環境	総合実習				農業と情報	測量	LHR														
2年	文学国語	地理総合	数学Ⅰ	物理基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	課題研究	総合実習	農業と情報	農業土木設計	農業土木施工	水循環	測量	社会基盤工学	LHR																
3年	文学国語	歴史総合	数学A	物理基礎	体育	論理・表現Ⅰ	課題研究	総合実習	栽培と環境	農業経営	農業機械	農業土木設計	農業土木施工	水循環	LHR																	

・総合実習は時間割外実習2単位を含む。

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの80%以上理解できる。	○他者を意識して話す、聞く、書く、読むことができる。 ○他の考えと自分の考えを比較できる。 ○他の考えと自分の考えを比較した文章が書ける。	○自ら、言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという強い意欲がある。 ○将来・人生・生活などに学んだ内容を結び付けて考えようという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをまとめられる。他者の考えを理解できる。	○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをある程度まとめたり、理解したりできる。	○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうとしている。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとしている。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「現代の国語」（大修館書店）  
 副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）  
 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「考える」ことの重要性を学ぶ 1、明日をひらく</li> <li>● 自分の考えを的確に伝える（話す・聞く）（書く）（伝わるように話す・わかりやすく書く） 3、的確に伝える 4、意見を示す</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報を的確にとらえる（読む） 2、要点をつかむ 5、論理をとらえる 9、情報を比較する 11、主張を吟味する</li> <li>● 情報に対する意見を伝える（書く）（話す・聞く） 6、魅力的に伝える 7、資料を駆使する</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他者を意識して考え、また、他者を意識して自分の考えを伝える（書く）（話す・聞く）（読む） 8.他者と交流する 10.他者を動かす 12.考えを発信する</li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テスト</li> <li>・ 定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査</li> <li>・ レポート</li> <li>・ 感想</li> <li>・ 授業における発表や成果物</li> <li>・ ノート</li> <li>・ 長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノート</li> <li>・ 振り返りシート</li> <li>・ 感想</li> <li>・ レポート</li> <li>・ 長期休業中の課題</li> </ul>
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。	○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む)  ○自ら題材を決め、他者を意識して表現することができる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。  ○自ら言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。	○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む)  ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。  ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。	○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容のある程度解釈したり、評価したりできる。(読む)  ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。  ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうとしている。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「言語文化」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）

「古典文法クリアノート」（尚文出版） 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語文化への視点を持つ 世界を見渡す窓（現代文） 等</li> <li>●考えを表す言葉の変遷を学ぶ 論語（漢文） 徒然草（古文） 随筆（現代文） 等</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物語を表す言葉の変遷を学ぶ 故事成語（漢文） 物語（古文） 小説（現代文） 等</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●想いを表す言葉の変遷を学ぶ 漢詩（漢文） 和歌（古文） 短歌・俳句・詩（現代文） 等</li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・感想</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・感想</li> <li>・レポート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>
重みづけ	1	1	1
	<p>高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。</p>		

目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長の プロセス	観点別：A  ジャンプ  評定：5	公民的な知識・技能を活用して、現実社会の諸課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。		
	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら深く理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から効果的に収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけて適切な方法でまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら深く考えることができる。 ○課題の解決に向けて深く議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを分かりやすく文章で表現することができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと関連付けて考えている。 ○常に創意工夫し、課題の解決に向けて取り組んでいる。 ○主権者としての自覚をもち、自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組んでいる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとしている。	
	観点別：A  ステップ  評定：4	公民的な知識・技能を踏まえて現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけてまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら考えることができる。 ○課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを文章で表現することができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○主権者としての自覚をもち、自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で学び続けようとしている。	
観点別：B  ホップ  評定：3	現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。			
	○倫理、政治、経済などに関わる基礎的基本的な概念や理論を	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について	○基礎的・基本的な知識・技術や考察力を身につけようと	



目 標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式、二次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。  
(知識及び技能)
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公式・法則、用語などを理解し、導くことができる。</li> <li>○副教材の応用問題の解法を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十分に数理的に考察する力を付けている。</li> <li>○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。</li> <li>○副教材の応用問題に積極的に取り組む姿勢をもつ。</li> </ul>
 ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解している。</li> <li>○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おおよその数理的に考察する力を付けている。数を拡張することに興味を持つ等。</li> <li>○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書で学んだ範囲に対し、副教材で復習を行う。</li> <li>○提出課題等、計画的に行っている。</li> </ul>

  ホ ツ プ	○数学用語・公式を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながら練習問題に取り組む。	○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。 ○様々な解き方を模索することで論理的に考えることへの興味関心を高める。	○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。 ○間違った箇所をマークし、反復演習をする習慣をつける。
--	---	---	---

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「数学Ⅰ Essence」 （東京書籍）

副教材 「ニュージャスト数学Ⅰ」 （東京書籍）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	1章 数と式 1節 式の計算                      2節 実数                      3節 1次不等式
2 学 期	2章 集合と論証 1節 集合                      2節 命題と論証 3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ
3 学 期	2節 2次方程式と2次不等式

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 予習として、教科書を見て疑問点をチェックしておく。（なぜ？なに？を大切に）
- 積極的な態度で授業に臨み、授業で何がわかったかできるようになったかを復習するため、問題集を解く習慣をつける。（反復練習）
- 板書を写し取るだけでなく、自分が考えるときのポイントや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫してノートを取る。
- 疑問点については、質問するなどして早めに解決する。
- 教科書や問題集の基本問題を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>
重みづけ	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>2</b>
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<p>○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容を人間生活と関連付けて深く理解しており、日常生活の中で活用することができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても説明することができる。</p>	<p>○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、自ら問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。</p> <p>○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。</p>
	ステップ	<p>○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容を人間生活と関連付けて深く理解している。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。</p>	<p>○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、教師等による最小限の助力で、問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、教師等による最小限の助力で、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。</p> <p>○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。</p>
		<p>○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容を人間生活と関連付けて理解している。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作</p>	<p>○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをも</p>	<p>○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返り、改</p>

ホ ッ プ	などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	って実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。 ”
-------------	----------------------------	---	---

#### 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 科学と人間生活」 第一学習社

副教材 「新課程版 ネオパルノート 科学と人間生活」 第一学習社

#### ■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	序 章 科学技術の発展 第Ⅰ章 物質の科学 ・材料とその利用 または ・衣料と食品 第Ⅱ章 生命の科学 ・人の生命現象 または ・微生物とその利用
2 学 期	第Ⅱ章 生命の科学（続き） ・人の生命現象 または ・微生物とその利用 第Ⅲ章 熱や光の科学 ・熱の性質とその利用 または ・光の性質とその利用
3 学 期	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 ・自然景観と自然災害 または ・太陽と地球

#### ■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

#### ■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>
重 み づ け	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。</li> <li>○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。</li> <li>○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。</li> </ul>	
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を込めて表現したりすることができる。</li> <li>○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。</li> <li>○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。</li> <li>○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。</li> <li>○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。</li> <li>○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。</li> <li>○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動</li> <li>選択① 器械運動・ダンス</li> <li>選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動</li> <li>・体育理論</li> <li>選択③ 器械運動・ダンス</li> <li>選択④ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道</li> <li>・持久走</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動</li> <li>・持久走</li> <li>選択⑤ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道</li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルテスト</li> <li>・ルールテスト</li> <li>・体育理論テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート、感想</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 シャンプ	○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。 ○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけ、実践することができる。	○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を自ら思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、自分の考えを持つことができる。	○現代社会と健康についての学習に主体的に取り組むことができている。 ○安全な社会生活についての学習に主体的に取り組むことができている。
 ステップ	○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることが理解できる。 ○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることが理解できる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけることができる。	○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を最小限の助言によって思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、自分なりの考えを持つことができる。	○現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。

ホ  
ッ  
プ

	<p>○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを教師の解説や助言により理解することができる。</p> <p>○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを教師の解説や助言により理解することができる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当てを適切に行う技能を教師の解説や助言により身につけることができる。</p>	<p>○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を教師等の個別な解説や助言によって、思考し判断するとともに、それらを表示することができる。</p> <p>○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、教師等の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。</p>	<p>○現代社会と健康についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p> <p>○安全な社会生活についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p>
--	--	--	---

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）  
副教材 「新高等保健体育ノート」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

		単元名・学習内容	
		第一章 現代社会と健康	
1 学 期	①	日本における健康問題の変遷	⑤
	②	健康の考え方と成り立ち	⑥
	③	ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	⑦
	④	健康に関する意思決定・行動選択	⑧
		第一章 現代社会と健康	
2 学 期	⑨	身体活動・運動と健康	⑭
	⑩	食事と健康	⑮
	⑪	休養・睡眠と健康	⑯
	⑫	がんの予防と回復	⑰
	⑬	喫煙と健康	
		第二章 安全な社会生活	
3 学 期	①	事故の現状と発生要因	④
	②	交通事故防止の取り組み	⑤
	③	安全な社会の形成	⑥

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実生活に結びつけて、それぞれのテーマを学習する。
- ・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションを図り、知識を定着させる。
- ・ワークシートやノートを活用して、用語の理解や発問に対して答えられるようにする。
- ・教師のアドバイスを聞いて、課題に粘り強く取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・ノート</li> <li>・定期考査</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	:	<b>1</b>
	保健の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ全体を見ながら、獣人に助言をしつつ、課題を完成させることができる。</li> <li>○鑑賞で学んだことを、実技でも応用できる。</li> <li>○授業で学んだことを、書籍やインターネットも活用して、理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による助言を受けずとも、自分の力で課題に取り組むことができる。</li> <li>○ノートやワークシートについて、これまでの授業や中学校までの経験を生かして、多角的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○創意工夫をして作品を完成させることができる。</li> <li>○様々なジャンルの音楽に振れ、知識の幅を広げたり、深く考えたりできようとする。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の力や友人教師の助言を受けながら読譜し、課題を完成させることができる。</li> <li>○現在の課題について、過去の授業と関連付けて理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間内で課題に取り組み、作品を完成させることができる。</li> <li>○ノートやワークシートについて、自分なりの言葉でまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分や周りの出している音を注意深く聞き、他者に伝える力を高めようとする。</li> <li>○自分の学び方を振り返りながら、学び続けようとする。</li> <li>○授業で学んでいる曲を進んで鑑賞している。</li> </ul>
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ト音譜表、ハ音譜表の音符をそのまま読む、もしくは階名を振って読むことができる。</li> <li>○授業の内容を、資料を参考にしながら理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による助言を参考にし、課題に取り組むことができる。</li> <li>○ノートやワークシートについて、最低限授業で求められることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。</li> <li>○自分の学び方を振り返り、直すべきところは改善しようとする。</li> <li>○普段から音楽に親しんでいる。</li> </ul>

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MOUSA1」（教育芸術社）  
副教材 「Music Note」（啓隆社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	<p>歌を歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌及び簡単な独唱、合唱曲を歌う。可能ならグループ学習へ移行。</li> </ul> <p>楽器にふれよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤楽器や簡易な打楽器を演奏する。可能ならグループ学習へ移行。</li> </ul> <p>指揮してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平易な曲を使用し、基本的な図形を振る。フェルマータを振る。</li> </ul> <p>様々な楽器の音色に親しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞をすることにより、管楽器や弦楽器の音色に親しむ。楽器の特性を知る。</li> </ul>
2学期	<p>一人で演奏しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの課題を発表する。</li> </ul> <p>表現を工夫してギターのリズムをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シチリアーナ」の2～3重奏をする。</li> </ul> <p>日本や諸外国の様々な楽器にふれよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和楽器や諸外国の民族楽器の音を出してみる。</li> </ul> <p>総合芸術や楽器編成について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌劇や2～4管編成の管弦楽曲等を鑑賞することにより、スコアリーディングをする。</li> </ul>
3学期	<p>フランスの作曲家について生涯と作品をたどろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドビュッシーやラヴェル等の生涯をたどりながら、作品の特徴を理解し魅力を味わう。</li> </ul> <p>創作を含めた様々なアンサンブルに取り組もう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドクラップや合唱奏をグループで取り組む。各グループに応じたアレンジを行う。</li> </ul> <p>ギター以外の弦楽器にふれる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァイオリンの開放弦を弾き、ボーイングのアップとダウンの違いを知る。</li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・グループ学習は、メンバーと協力して発表に取り組む。
- ・提出物に関しては、締め切りを守って提出する。
- ・器楽、声楽、創作（楽典含む）、鑑賞とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。
- ・書籍やインターネットなどを活用し、普段から音楽について深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テスト</li> <li>・鑑賞の感想（ノート）</li> <li>・ワークシート</li> <li>・レポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テスト</li> <li>・鑑賞の感想（ノート）</li> <li>・ワークシート</li> <li>・レポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・自己評価、他己評価</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	音楽の学習の基礎となる演奏力を高めるために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標やねらいを的確に意識し、主体的に作品を制作することができる。</li> <li>○意図に応じて表現方法を創意工夫したり、画材の特徴を生かして個性豊かに表現している。</li> <li>○丁寧に作品を制作し、完成度を高めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて深く考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。</li> <li>○価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。</li> <li>○他人の作品を積極的に鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。</li> <li>○創意工夫をして真摯に製作に取り組み、作品を完成させることができる。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標やねらいを意識し、主体的に作品を制作することができる。</li> <li>○意図に応じて表現方法を創意工夫したり、画材の特徴を生かして創造的に表現しようとしている。</li> <li>○丁寧に作品を制作することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。</li> <li>○美術に対する見方や感じ方を深め、意図や目的について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。</li> <li>○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。</li> <li>○創意工夫をして作品を完成させることができる。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標やねらいを意識して作品を制作することができる。</li> <li>○表現方法や画材の特徴を知り、表現の幅を広げることができる。</li> <li>○丁寧に制作することを意識して取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による助言を参考にし、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。</li> <li>○身の回りの美術について知り、興味関心を持ち、意義や価値について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。</li> <li>○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見することができる。</li> <li>○学んだ知識や技法を生かして作品を完成させることができる。</li> </ul>

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高校生の美術1」（日本文教出版）  
 準備物 中学で使用した絵の具セット

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画1（よく見て描く） 目の前のモチーフをよく観察し、鉛筆デッサンを描きます。</li> <li>・ 絵画2（絵の具で描く） 絵の具を使って絵画を制作します。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デザイン、立体造形 テーマに沿ってデザインを考え、立体で制作します。</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アニメーション コマ撮りアニメーションを制作します。</li> </ul>

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 1つ1つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・ 授業時間を大切にして、毎回の授業に集中して取り組む。
- ・ 実技教科のため、作品は必ず完成させる。
- ・ 提出物に関しては、期限を守って提出する。
- ・ 絵画、デザイン、立体とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品</li> <li>・ アイディアスケッチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品</li> <li>・ アイディアスケッチ</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業態度</li> <li>・ 準備物</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	美術の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

**目 標**

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な書写能力を習得したうえで、芸術書道としての表現性(古典の表現効果や風趣)を理解し、効果的な表現ができる。</li> <li>○書の伝統と文化について、知識を深めることができる。</li> <li>○古典における線質、字形、構成等の要素を捉え、創作作品を主体的に制作することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品や書のよさを感じ取り、それを言葉で表現し、伝えることができる。</li> <li>○自ら心に響く言葉を選定したり、表現したいことを明確にしたりして、その感興に基づき作品の構想を立てることができる。</li> <li>○試行錯誤をしながら、より良い作品に仕上げるため変化させることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な活動を通して、知識の幅を広げたり、深く考えたりできる。</li> <li>○生活や社会において書が果たしている役割や効用を模索し、それを尊重できる。</li> <li>○作品制作において、主体的に取り組み、創意工夫を繰り返すことができる。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な書写能力を習得し、芸術書道の表現性を感じ取ることができる。</li> <li>○書の伝統と文化について、理解できる。</li> <li>○自らの感興に沿った作品作りができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品や書のよさを味わい、自分なりの考えを持つことができる。</li> <li>○言葉の持つイメージや、表現したいことを伝えることができる。</li> <li>○教師や友人からの助言を参考にし、より良い作品に仕上げようとするすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な活動を通して、知識の幅を広げることができる。</li> <li>○生活や社会において書が果たしている役割や効用を考えることができる。</li> <li>○作品制作において、主体的に取り組み、より良い作品にしようとする態度がみられる。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字の点画の構成を理解し、用具用材を正しく使い、表現することができる。</li> <li>○書の伝統と文化について、興味を持つことができる。</li> <li>○資料を参考にしながら、表現したいことを構想に表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品や書のよさを考えることができる。</li> <li>○作品を鑑賞して、自らの感想や考えを述べることができる。</li> <li>○教師からの助言を理解し、作品制作に生かすことができる。</li> <li>○与えられた課題に対し、真摯に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。</li> <li>○生活や社会の中で書がどのような場面で用いられているか考えることができる。</li> <li>○作品制作において、自分の表現を振り返り、学んだ知識と技能を生かして作品を完成させることができる。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「書道Ⅰ」（教育出版）

準備物 太筆

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>【漢字の書】楷書の学習 「九成宮醴泉銘」、「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」、「顔氏家廟碑」の臨書 ・書風の違いを味わい、用筆・運筆法を身につける。 楷書の作品を創作しよう ・学んだ古典の特徴を生かし、創作する。</p>
2 学期	<p>【漢字の書】行書の学習 「蘭亭序」、「風信帖」の臨書 ・行書の特徴を知り、基本的用筆法を身につける。 ・書風の違いを味わい、表現する。 【篆刻】 自刻印を制作しよう ・篆書体の特徴を理解し、草稿をつくる。 ・印刀などの用具を正しく使い、印を彫る。</p>
3 学期	<p>【仮名の書】 「蓬萊切」「高野切第3種」の臨書 ・仮名の基本的用筆法を学び、平仮名、変体仮名を書く。 ・連綿の特徴を学び、連綿のある語句を書く。 ・古筆の良さを味わいながら臨書する。 【漢字仮名交じりの書】 オリジナルカレンダーの制作 ・これまでの学習で学んだことを生かし、個性を生かした表現で創作する。</p>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切に、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・一つ一つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・実技教科なので、作品は必ず仕上げ提出する。
- ・日常生活の中で見られる書について関心を持ち、深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品</li> <li>・草稿、デザインアイデア</li> <li>・ワークシート</li> <li>・鑑賞シート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・ワークシート</li> <li>・感想、自己評価</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	書道の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

**目 標**

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

**■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）**

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長の プロセス	ジャンプ ▲	○教科書で扱われる英単語や文法事項について理解を深めている。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ステップ ▲	○教科書で扱われる英単語や文法事項を理解している。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ホップ	○教科書で扱われる英単語や文法事項について教師等の助力があればおおむね理解できる。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、教師等の助力があればおおむね活用できる。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを教師等の助力があればおおむね理解したり、伝えたりすることができる。	○外国語の背景にある文化に興味を持ち、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「All Aboard! English Communication I」 東京書籍  
 副教材 「All Aboard! English Communication I ワークブック」 東京書籍  
 「ビッグ・ディッパー高校英語」 数研出版  
 「クラウン チャンクで英単語 Basic」 三省堂

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	Lesson 1 Breakfast around the world 私の朝ごはん ・動詞の過去形 ・好きな食べ物について紹介する Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物 ・進行形 <be 動詞+動詞の-ing 形> ・好きな動物について紹介する
2 学期	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車 ・助動詞：can, will ・ある場所への行き方とそこでできることについて紹介する Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景 ・to 不定詞<to+動詞の原形> ・行ってみたい場所について述べる
3 学期	Lesson 5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部 ・動名詞<動詞の-ing 形> ・将来の夢について紹介する

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	英語の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と表現力の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

**目 標**

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする（**知識及び技能**）
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。（**思考力、判断力、表現力**）
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。（**学びに向かう力・人間性等**）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを理解し、生活の中で活かすことができる。</li> <li>○生活に係る技能が身に付き、適切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○周りの人々と協働し、よりよい社会を目指し、地域社会で活動しようとする。</li> <li>○自分の家族・家庭や地域の生活に主体的に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動できる。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことがおおむね理解でき、生活の中で活かすことができる。</li> <li>○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の家族・家庭の生活に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動しようとする。</li> <li>○課題等やるべきことを、期限までに自分でする。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。</li> <li>○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、教師等による解説や助力を頼りに解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「図説 家庭基礎」 （実教出版）  
副教材 「図説家庭基礎 学習ノート」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 自分らしい生き方と家族 ・人の一生と家族・家庭 ・青年期の自立と家族・家庭 衣生活をつくる ・衣生活と健康 ・小物製作
2 学期	子どもとかかわる ・子どもの生活と保育 高齢者とかかわる ・高齢期の生活と福祉 社会とかかわる ・共生社会と福祉 食生活をつくる ・食生活と健康
3 学期	食生活をつくる ・調理実習 住生活をつくる ・住生活と住環境 経済的に自立する ・生活における経済の計画 消費行動を考える ・消費行動と意思決定 ・持続可能なライフスタイル と環境

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業で学ぶ知識や技術を自分の生活に活かせるように、常に自分自身の生活を振り返り課題を見つけながら学習する。
- ・作品製作やレポートには計画的に取り組み、期限内に必ず提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・ノート ・長期休業中の課題 (ホームプロジェクト)	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・実習態度 ・長期休業中の課題 (ホームプロジェクト)
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培植物の育成、環境の保全や創造など農業と環境に関する基礎的な知識を身に付け、農業や環境と人間生活の関係や栽培植物の特性と栽培環境の関係を理解している。</li> <li>・栽培植物の育成や、環境の保全と創造など、農業と環境に関する基礎的な技術を身に付け、プロジェクトを適切に実施するとともに、栽培の際の実験・観察や環境調査の考察などを正確に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培植物の育成の記録を分析や、環境調査の記録など課題を多面的に考察し、農業と環境に関する基礎的な知識と技術を活用して課題を適切に判断するとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決する実践的な能力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培植物の育成や環境の保全や創造、農業および環境と人間生活の関係など、農業と環境、それに関する学習に興味・関心を持ち、栽培植物の育成や環境保全などに関するプロジェクトを主体的に行うなど、課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食と農業、環境と農業、生活に関する基礎的な知識を身につけ、農業の社会的な役割と環境・暮らしとの関係について理解している。</li> <li>・食と農業、環境と農業、生活に関する資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。</li> <li>・プロジェクトの実施にあたり、扱う作物の特性、及びそれらをとりまく生物・環境等の条件を統合させ、管理計画を合理的に作成し、実施の手順と展開について適切に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と他の生物との関係、環境と農業、生活に関する諸課題の解決を目指し思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに合理的に判断し、その課程や結果を適切に表現している。</li> <li>・作物栽培とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決にむけた具体的な取り組みについて計画・実行する能力を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と他の生物との関係、農業の社会的な役割と環境や暮らしとの関係について関心を持ち、探究しようとする意欲と態度を身につけている。また、食と農業の現状や動向、課題に関心を持ち、主体的に学び探究しようとする意欲と態度を身につけている。</li> <li>・作物に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。</li> </ul>
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と環境の相互関係の理解に基づき、農業や環境の学び方に関する資料や情報を収集し、適切に活用している。</li> <li>・プロジェクト学習に関する基礎的な知識を身につけ、農業や環境の学習の基本的な学習方法であることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と環境の相互関係の理解に基づき、農業や環境の学び方に対して思考を深め、その課程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と環境の相互関係の理解に基づき、農業や環境を学ぶことに関心を持ち、主体的に学び探究しようとする意欲と態度を身につけている。</li> <li>・農業の学び方の基本となるプロジェクト学習に関心を持ち、実践しようとする意欲と態度を身につけている。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか(使用教材)

教科書 農業と環境(実教出版)

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	第1章 農業と環境を学ぶ 1 農業・環境学習とは何か 2 農業と環境の学び方 第2章 私たちの暮らしと農業・農村 1 人間と植物・動物とのかかわり
2学期	2 農業と自然・社会とのかかわり 3 日本の農業・農村と食糧供給 4 農業・農村の役割 5 これからの農業・農村
3学期	第3章 1 作物の特性と栽培のしくみ 2 作物をとりまく環境とその管理

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、わからないところはそのままにせず質問するなどして理解に努める。
- ・ノートは黒板を写すだけでなく、自分なりに工夫をする。またプリントはノートに貼るなどしてあとから見やすいようにし、整理力を身に付ける。
- ・実習では全員で協力して取り組む。また安全上、実習服・長靴を正しく着用し、機械や道具を使用する際は指導者の指示に従い正しく使用する。
- ・常に周りの行動を把握し、次の手を判断して行動できる段取り力を身につける。
- ・常に生き物の「命」を預かっているという事を考えながら授業や実習に取り組む。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・学習ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> </ul>
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。  
(知識及び技術)
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な知識や技術を深く理解し、人に教えたり説明したりできる。</li> <li>○実習で得た知識や技術を異なる場面でも応用できる。</li> <li>○授業で学んだことを、他の情報を含め、総合的に検証し、理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による助言がほぼなくても自分自身の判断で取り組むことができる。</li> <li>○ノートやファイルを多角的な思考や判断で、求められているレベルを越えて記録することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のやるべきことを自ら発見し、進んでやりきることができる。</li> <li>○創意工夫しながら学ぼうとする姿勢をもつことができる。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な知識や技術を反復によって修得し、作業に生かすことができる。</li> <li>○授業で学んだことを、過去の授業と関連付けて理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による助言が最小限でも自分なりに取り組むことができる。</li> <li>○ノートやファイルに求められているレベルまで十分に記録をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のやるべきことをやりきることができる。</li> <li>○自分の学びを振り返り、学びを向上させることができる。</li> </ul>
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最低限必要な知識や技術を覚えたり作業することができる。</li> <li>○授業で学んだことを理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による助言を元に概ね取り組むことができる。</li> <li>○ノートやファイルに求められているレベルまで概ね記録することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のやるべきことをやりきろうとする。</li> <li>○自分の学びを振り返りながら学び続けようとする。</li> </ul>

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 なし  
副教材 なし

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>単元名 総合実習(1-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の班を編成し、都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースにわかれてローテーションしながら学習する。教材は時期に応じた内容を取り扱う。</li> <li>・農業鑑定 1-1(園芸に関すること)</li> </ul>
2 学期	<p>単元名 総合実習(1-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の班を編成し、都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースにわかれてローテーションしながら学習する。教材は時期に応じた内容を取り扱う。</li> <li>・農業鑑定 1-2(農業土木に関すること)</li> </ul>
3 学期	<p>単元名 総合実習(1-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市園芸コース(果樹・野菜・草花)および環境土木コースの専攻にわかれて学習する。教材は時期に応じた内容を取り扱う。</li> <li>・農業鑑定 1-3(園芸または農業土木に関すること)</li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実習服を着用し、安全第一に実習する。
- ・総合実習は時間割内総合実習(4単位)と時間割外総合実習(2単位)に分けて実施する。
- ・時間割外総合実習は平日の当番と夏・春休みの当番からなり、別途当番表により配当される。
- ・主体的に農場において実習し、知識・技術を身に付け、思考・判断・表現することができるようにする。
- ・時間割内総合実習では実習ファイルを毎回ていねいに仕上げ提出する。
- ・農業鑑定に関するテストを学期末ごとに行うので、課題をていねいに仕上げ提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習・実技</li> <li>・農業鑑定テスト</li> <li>・実習ファイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習・実技</li> <li>・農業鑑定テスト</li> <li>・実習ファイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合実習における態度</li> <li>・農業鑑定課題</li> <li>・実習ファイル</li> </ul>
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会における問題や課題を正しく理解し、その解決策を自分なりに工夫することができる。</li> <li>○情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じた適切な方法を選択することができる。</li> <li>○自分の意見や考えを、情報機器を活用して視覚的にわかりやすく伝えることができる。</li> <li>○問題解決の手順を論理的に考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会に主体的に参画しようとしている。</li> <li>○情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。</li> <li>○よりよいコミュニケーションを行うために、自らの取り組みを評価・改善できる。</li> <li>○問題解決に情報機器を積極的に活用し、自ら結果を振り返って改善しようとしている。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会と人間との関わりについて考え、情報と情報技術の活用の意義を理解している。</li> <li>○情報に関する法規や制度、情報セキュリティとは何か、どのようなものであるかを理解している。</li> <li>○情報デザインの考え方について、十分に理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切に活用している。</li> <li>○情報モラルに配慮して、よりよいコミュニケーションを行おうとしている。</li> <li>○情報伝達のために、コンテンツ制作の個人技術を高めようとしている。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報化が進展する社会の特質について説明することができる。</li> <li>○情報に関する法規や制度、情報セキュリティなどの基本的なものを暗記している。</li> <li>○身近で具体的な情報デザインの例を基に、情報機器を操作する技術を身につけている。</li> <li>○関数の定義・使用により、プログラムの構造を整理する技術を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の特性を活用した事例と、それによって生じる事例を挙げることができる。</li> <li>○情報セキュリティの脅威に対する対策について、説明することができる。</li> <li>○報告者やレポートの目的に対して、体裁を考え、わかりやすい資料を作成し報告できる。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 農業と情報(実教出版)

副教材 高校用 新「情報」活用テキスト+別冊(実技・実習編)+学習ノート(ベネッセコーポレーション)

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	第1章 私たちの生活と農業の情報化 1 情報社会における私たちの生活 2 情報とメディア 3 情報社会とモラル	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書の作成と表現
2 学期	4 農業を支える情報 第2章 社会を支えるコンピュータ 1 コンピュータのしくみ 2 データや情報の表現	3 データの集計と視覚化
3 学期	3 情報通信ネットワーク 4 インターネットのしくみ 5 情報セキュリティ	3 データの集計と視覚化

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ソフトウェアやインターネットなどを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・情報機器の仕組みを理解して積極的に活用し、生活の中で利用できる操作や技術を身につける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・新聞やインターネットなどのメディアに積極的にふれ、社会事象に興味・関心を持つ。
- ・日常生活において、個人情報やセキュリティに対して注意深く考える習慣を持つ。
- ・色々な場面の小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・機器操作のテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・学習ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> <li>・機器操作への取り組み</li> </ul>
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、測量に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 測量について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。  
(知識及び技能)
- (2) 測量に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 測量について国土保全や環境創造に応用できるよう自ら学び、土木の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長の プロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○測量に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を習得し、各種建設工事における測量の意義や役割を理解し、地域における測量に応用しようとする。</li> <li>○各種建設工事に用いられる測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、創意くふうして測量技術を探求する方法を習得できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○測量のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ、解決策を考えることができる。</li> <li>○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。</li> <li>○自ら問題を解決するための実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。</li> <li>○応用問題に積極的に取り組む姿勢を持つ。</li> <li>○友人と協働し、試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○測量に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を習得し、各種建設工事における測量の意義や役割を理解し、地域における測量に興味・関心を持つ。</li> <li>○各種建設工事に用いられる測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得するとともに、創意くふうして測量技術を探求する方法を理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○測量のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけることができる。</li> <li>○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、説明できる。</li> <li>○教師の助言により、実験内容を考え、見通しを立てて実験、考察を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書で学んだ範囲に対し、復習を行っている。</li> <li>○板書だけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。</li> <li>○試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に向けて取り組むことができる。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○測量に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を習得し、各種建設工事における測量の意義や役割を理解している。</li> <li>○各種建設工事に用いられる測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○測量のあるべき姿と、それに対する現状の認識から問題点を見つけ出そうと努力する。</li> <li>○教師の助言のもとで基本問題の解法を自分の言葉で説明できる。</li> <li>○教師の助言や友人と協力して実験、考察を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートやプリントの整理ができる。</li> <li>○提出物や課題等を期日までにやり遂げる。</li> <li>○振り返りを大切にし、改善すべき点について考えようとする。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 測量（実教出版）  
副教材

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	(1) 「測量」とプロジェクト学習 ア. 測量に関するプロジェクト学習の意義 イ. プロジェクト学習の進め方 (2) 測量の意義と役割 (3) 位置や高さの測量 ア. 平板測量
2 学期	(3) 位置や高さの測量 エ. 水準測量 イ. 角測量
3 学期	(3) 位置や高さの測量 ウ. トラバース測量 オ. 基準点測量と衛星測位

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 講義や実習などを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・ 授業を大切に、粘り強く学習することを心がける。
- ・ 仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・ 測量に関する小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・単元毎テスト （実技テスト含む）	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・学習ノート	・学習ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

1年 組 番	氏名
--------	----